

シオン通信

大宮シオン・ルーテル教会 礼拝説教集

2010年7月 第26号

日本ルーテル教団

大宮シオン・ルーテル教会

〒331-0814

さいたま市北区東大成町 1-229

phone/fax : 048-663-0215

URL <http://omiya.church.ne.jp>

Email : himei-y@oregano.ocn.ne.jp

大宮シオン・ルーテル教会

梁 熙 梅(やん・ひめ)

遅くなりました

暑い日が続いておりましたが、みなさまが主の平安の中で過ごしておられることと信じます。「恵みの雨」という言葉が生きた言葉として身近に感じられる今日は、雨のおかげで涼しい一時を過ごしています。農作物などにはもちろんのこと、照り輝く強い日差しから身を逃してくれた、それこそ恵みの雨、恵みの時ですね。

7月18～19日は、暑い中で教会学校の一泊お泊まり会が行われました。8名の子どもたちが参加して、いっしょにいろいろなことを楽しくすることができたと思います。子どもたちが、来年もやりたいという言葉を残してくれて、教会学校の教師の立場からは、これ以上の感謝はありません。無事にすべてが終わってほっとしています。

また、中高生の浴衣パーティーが19日の海の日に行われました。生徒が7名、大人が14名集まり、聖書クイズやカキ氷やスイカの食べ放題など、盛りたくさん楽しみました。浴衣パーティーと名づけながら、3人の大人だけが浴衣姿だったので、少し寂しかったのかな！これから毎年固定して行いたいと思っています。当日の様子は8ページに載っていますので、どうぞご覧になってください。

教会の夏のイベントが一段落したところで、梁は8月8日から14日まで韓国へ帰ります。9日から行われる韓国ルーテル教会女性宣教連合会修養会に出席して、日⇄韓の通訳の勤めやその他のことを果たして、12日から3日間家族と夏休みを過ごします。

また、8月にもイベントを設けています。22日の主日礼拝後、教会の一日キャンプとしてお楽しみ会をもちます。今までとは少し変わった形の交わり形式になると思いますが、夕食は韓国のバーベキューともう一品プラスして、楽しいときを作り上げる予定です。外へ出かけるのもいいと思いますが、いつも礼拝するためにだけ訪れる教会で、昼食も夕食も取りながら共に過ごせることの喜びを感じられたらと願っています。このニュースレターを読まれるみなさまも、ご都合がゆるされるならどうぞ来てください。いっしょに楽しくすごしましょう。

8月は教会のウィークデーの集会がないために、私の方で、普段出かけられないところへ出かける予定をしています。どんな出会いが与えられるか、楽しみにしています。みなさまもたくさんの思い出をお造りになってください。

聖書のみことば

7月25日 聖霊降臨後第9主日礼拝

ルカによる福音書10章38～42節

38 一行が歩いて行くうち、イエスはある村にお入りになった。すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。39 彼女にはマリアという姉妹がいた。マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。40 マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」41 主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。42 しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

説 教

心に真実な言葉を宿す人

時々、毎日が無駄に過ぎてしまっているという空しさに覆われるときがあります。忙しい時は、とにかくその忙しさに追われているので考える余裕などないのですが、ふっと時間ができると、何か大きな、やるべきことを忘れていたような、不安な気持ちにさらされるのです。しかしそれが何なのか、具体的なことはわかりません。

私は、これが一つ、現代人が抱えている現代病の一つではないかと考えると共に、一人の人がその一生涯の中で成し遂げられることが、いったいどれだけあるのかと考えてしまいます。そして、多くのことを成し遂げられたとしても、それが自分に

とって本当に意味あることなのかと考えてしまうのです。毎日多くのことを抱えて、忙しくしているためにだけ動いているなら、それはただ、心の中にある不安をごまかすためにやっている病の一つだと思うのです。

先ほど拝読していただきましたルカ福音書10章の、マルタとマリアの物語の中には、このような現代人の心の内面を表している言葉がいくつも表現されています。その一つ一つを取り出して考えながら、この物語が現代を生きる私たちにどのような意味をもたらす物語なのか、共に考えてみたいのです。

さてまず一つは、40節に記されている「いろいろのもてなし」という言葉です。二つ目は、同じく40節のすぐ後に記されている「せわしい」という言葉です。三つ目は、41節にイエスさまの言葉として記されている「思い煩い」という言葉です。そして最後の四つ目は、同じく41節に記されている「心を乱している」という言葉です。

この四つの言葉を拾いながら、聖書のテキストの中のマルタとマリアがイエスさまの前にある状況と、今の私たちの状況を照らし合わせてみたいのです。

先ず一つ目、「いろいろのもてなし」という言葉は、多くもてなすこと、接待すること、奉仕をするという意味の言葉です。言葉が表しているように、この言葉自体は悪いイメージはなく、お客を迎えたときにはだれもが当然なすべきことで、むしろ良い意味のことばですが、しかしこの言葉が、今日の物語の中ではネガティブになってしまっています。つまり、この言葉を形容している「せわしい」という言葉のゆえに、ネガティブなイメージをもたらしているのです。

「せわしい」という言葉は、40節で「せわしく立ち働いていた」と表現されていますが、実はこの言葉は、「脇へ引きずられる」「わき道に引っ張られる」という意味の言葉です。すると、この言葉が与えているのは、もしかしたら、マルタも、はじめ

はイエスさまの前に座って、お話を聞いていたのかもしれないということが考えられます。そしてずっと、マリアと同じように、イエスさまの膝元で先生のお話を聞きだかったのかもしれませんが。でも、あのお皿、このご馳走と、だんだんと多くのもてなしを考え始めると、脇へ引きずられていった。つまり、席を立てて台所の方へ引っ張られて、場を移してしまった。こういう場面を考えられるのではないかと思います。

ですから、イエスさまを迎えての折角のもてなしが、脇へ引きずられた状態で用意するもてなしとなりましたから、本来もっている良い奉仕のイメージが失われてしまったのです。本当に残念ながら、もっとも大切な部分が取り除かれた、中身なしの、形式的なものになってしまったのでした。

もてなすことについては来週聞く予定の福音書も大切なことを教えているわけなのですが、もてなすことは、ユダヤ人にとってはとても大切な習慣でありました。大切なことであるから、マルタはその役を果たすために一所懸命に考えて、そして動いているのでしょう。とても大切なことだと思うから、自分にある能力を飛び越えて、人のものまで強いて引っ張り出そうとして、脇へ引っ張っていかうとするのでしょう。しかし、どんなに大切なことであっても、一人にしかできない限度というものがあります。今にしかできないこと、今にだけできることをわきまえて、限度を越えて、

自分の力に及ばないことは避けてみる、引き算の魅力を知る信仰の歩みをしたいです。

そして次に、41節でイエスさまの言葉の中にあります「思い悩む」であります。この「思い悩む」という言葉は、ルカ福音書のほかの物語にも出てくる言葉です。

8章14節ですが、ある種蒔きが種をまきます。しかし、巻かれた種がいばらの中に落ちてしまい、芽は出したものの、実を実することはできなかったというたとえ話です。これは、「御言葉を聞くが、途中で人生の思い煩いや富や快樂に覆いふさがれて、実が熟するまでに至らない人」のことが言われたのでありました。そして今日のマルタのせわしく動いている姿の中に、この思い煩っている姿があります。初めはいっしょに座ってみ言葉を聞いていたものの、しかし段々と思いは脇へ引きずられていく。そのために心の中では、どの皿に何を入れるか、もう一品のあれもつくろうかといったような、み言葉を聞きながら台所のことを考えていた、という思い煩いがあります。そしてそれによって、マルタの心が乱されてしまいます。

「乱れる」と言う言葉は、「トラブルに巻き込まれる、トラブルに陥る」という意味の言葉です。つまり、心理的に錯乱している、ヒステリックになっているという意味の言葉です。あれやこれやと思いつくことによって、マルタの心の状態は乱され、つまり、ヒステリックに陥ってしまった、と

いうことであります。

以上のような言葉で表わされているのが、イエスさまをもてなすために忙しいマルタの姿であります。そしてこのような姿を現しているその裏には、イエスさまに対する愛が、イエスさまを心から愛しているという、本当に強い愛があるということ。その愛ゆえに、彼女がそこまでさせられてしまっているということです。

今日、そもそもイエスさまを家に向かえたのは、マルタでありました。そしてマルタは、多くのもてなしをしたい。そのために心が乱れてしまうくらいもてなしをしたいと思って、せわしく立ち動いています。その意味では、マルタは、イエスさまを愛することについては、決してマリアに劣らない人だと思うのです。ただイエスさまに対する愛し方が違う、それだと思うのです。

この二人の姉妹の物語は、イエスさまのひざ元に座ってお話を聞いているマリアは正しく、模範的な信徒である。しかし、み言葉を聞かないで台所でせわしく立ち動いているマルタは正しくない、間違っていると長い間語られてきた物語でもあります。しかし、本当にそうなんだろうか、私たちは考えなければなりません。マルタが台所に立って一所懸命にイエスさまをもてなす一心でいることが、愛の裏返しだとするならば、私たちはこの物語のメッセージを聞きなおさなければならないのです。

せわしく立ち働きながら心が乱れていくマルタの内面をいちばん知っておられたのは、イエスさまでした。彼女のご自分の対する思いを知っておられたのです。知っておられたから、イエスさまはこのような語りかけで彼女をなだめるのでした。

「マルタ、マルタ、あなたは奥のことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。」

イエスさまは、マルタの名前を二度繰り返しながら呼んでおられます。この名前の呼び方は、ただの呼び方ではありません。

昔、神さまが、ミディアンの地で羊を飼っていたモーセを召し出す際にも「モーセよ、モーセよ」と二度繰り返してモーセの名前を呼ばれ、「足から履物を脱ぎなさい」とお声をかけてくださり、イスラエルの民をエジプトの奴隷状態から救い出して、導き出す指導者として召しだしてくださいました。

また、預言者サムエルが、まだ小さかった頃、寝ているところで、「サムエルよ、サムエルよ」と呼ばれて、神さまはご自分の僕として召しだしてくださいました。

新約聖書の中では、使徒パウロがキリスト者たちを迫害して回るとき、ダマスコへの途上で、「サウル、サウル、なぜわたしを迫害するのか」と、イエスさまのお声がかります。

このように、預言者や使徒として召し出される際に、神さまは人の名前を繰り返して

て呼んでおられます。

今日の場面では、ヒステリックな姿をしてイエスさまの傍に立っているマルタが繰り返して呼ばれています。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。」

「必要なことはただ一つだけである。」

どういう意味でしょうか。モーセも、サムエルも、パウロも、呼ばれてからその後に続く言葉がありました。マルタの場合は、「必要なことはただ一つだけである」と言われています。これは、マリアのように、イエスさまの前に座ってみ言葉を聞くことを勧める言葉なのでしょうか。もちろん、間接的にはそうでしょう。しかし、人がなぜみ言葉を聴かなければならないのか。なぜ人が、イエスさまのひざ元に座って、神さまのみ前に進み出て、み言葉を聞いているのでしょうか。

それは、自分を失わないためであります。忙しすぎて、または逆に暇すぎて、または苦しすぎて、悲しすぎて、嬉しすぎるとき、人は自分自身を失ってしまいます。またそれは、マルタをせわしくたて動かした、その背後にある情熱的な愛が、ある限りを越えてまでもあの人のために、神さまのために、教会のためにと尽くされていくとき、彼女自身を保てなくなっていくのでした。自分を手伝わないマリアを責めていくようになったのです。

自分を失うということは、神を失うということなのですね。ですから、私たちが神さまのみ言葉を聞くということは、み言葉を通して語りかける神さまのお言葉を通して、自分自身を、本当の自分自身を見出す作業することなんだと思うのです。

「必要なことはただ一つだけである。」

ですから、この言葉は、自分の本来の姿を失わずに生きることが求められている、救われた者として与えられている新しいいのちを生かして、生き生きと生きるのだ、ということでありましょう。

人は、人とのかかわりを、対話をもってつないでいきます。対話の手段は、ストレートな言語なのかもしれない。手話のようなサインレングィジなのかもしれない。または絵や音楽なのかもしれません。

しかし、このようないろいろの手段を通して相手につながりを求めるとき、どれだけの人が自分の言葉をもっているのでしょうか。オリジナルな、自分だけのもの、神さまから与えられている大切な自分のもの、それを分かち合って相手と向かい合っている人がどれだけいるのかと思わされるのです。本来の自分を見出すことのできる人は、人の言葉によってではなく、神さまに与えられた自分だけの言葉を宿し、そして話します。

私自身もそうですが、今私がせわしくたち動いているこの姿が、果たして、真実な動きなのか、果たして、仕組まれている組

織の中の、みんなそうしているからする的な動きではないだろうか考えるのです。つまり、誰かの気に入ってもらうために、動いているのではないだろうか。もしそうであるならば、その姿は、自分固有の真実な言葉を宿していないために、人の言葉を借りて生きていることと思うのです。

今日私たちは詩編 15 編をもって讃美賞として交読しました。詩編 15 編の記者はこのように告白して言います。

主よ、どのような人が、あなたの幕屋に宿り、 聖なる山に住むことができるのでしょうか。

それは、完全な道を歩き、正しいことを行なう人。

心に真実の言葉があり、舌に中傷をもたない人。

友に災いをもたさず、親しい人を嘲らない人。

主の目にかなわないものは退け、主を畏れる人を尊び、悪事をしないとの誓いを守る人。

金を貸しても利息を取らず、 賄賂を受けて無実の人を陥れたりしない人。

これらのことを守る人は、とこしえに揺らぐことはありません。

ここで語られている人。その人とは、主の言葉に自分の身をおき、そしてその心の中に、真実な言葉、自分の言葉を宿す人のことでしょう。そして、自分自身を失わないように保ってくれるのは、主の言葉にほかないということを知っている人のこと

でしょう。この詩編記者は、「必要なことはただ一つだけである」という、必要ではないものを取り除いて、本当の必要に生きる人のことでしょう。

「必要なことはただ一つだけである。」

この言葉を語りかけるために、私たちの名前が主イエスによって繰り返し呼ばれています。その声を聞き分ける一週間でありますように。ただその声によってのみ、日々の生活が導かれますように祈ります。



8月の教会のイベント案内と梁のスケジュール

8月9日〈月〉～11日〈水〉

韓国ルーテル教会の女性連合会修養会が開かれ、梁が出席します。

8月12日〈木〉～14日〈土〉

梁の夏休みです。ソウルで北海道からの家族と合流します。

8月15日〈日〉

この日は川瀬彰吾先生が説教をしてくださいます。

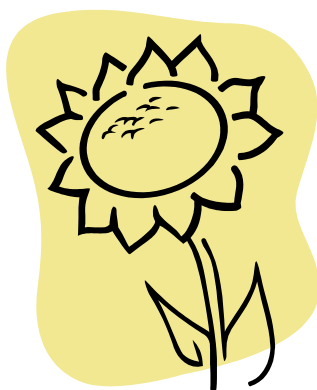
梁は司式をします。

8月22日〈日〉

教会一日キャンプとして礼拝後教会でお楽しみ会を行います。

ジャパニズ・ソーメン&コリアン・バーベキュー+α

お楽しみのメニューと面白い企画が盛りたくさん！！



ジュニア・ユース ～ 浴衣パーティー ～

当日の様子

【2010年8月礼拝予定】

【主日礼拝】毎週日曜日 朝 10 時 30 分～

8月1日(日) 聖霊降臨後第10主日礼拝 聖書：創世記 18:16-33、コロサイ 2:6-15、ルカ 11:1-13 主 題：祈りを教える主
8月8日(日) 聖霊降臨後第11主日礼拝 聖書：コヘレト 2:18-26、コロサイ 3:5-17、ルカ 12:13～21 主 題：神の前の豊かさ
8月15日(日) 聖霊降臨後第12主日礼拝 聖書：エレミヤ 23:23-29、ヘブライ 12:1-13、ルカ 12:49-53 主 題：主の苦しみによる平和
8月22日(日) 聖霊降臨後第13主日礼拝 聖書：イザヤ 66:18-23、ヘブライ 12:18-29、ルカ 13:22-30 主 題：狭い戸口への豊かな招き
8月29日(日) 聖霊降臨後第14主日礼拝 聖書：エレミヤ 9:22-23、ヘブライ 13:1-8、ルカ 14:7-14 主 題：神の国の価値観

(説教主題は今のところの予定です。変更になる場合もあります。)

【その他の集会】

- ・ 8月はウィークデーのすべての集会はお休みします。



大宮シオン・ルーテル教会

〒 331-0814 さいたま市北区東大成町 1-229

Tel/Fax 048-663-0215

URL : <http://omiya.church.ne.jp>

Email : himei-y@oregano.ocn.ne.jp